



たわわに秋の実り。実るほど頭を垂れる稲穂かな

9月も暑い日が続いています。熱中症警戒指数も高く、外遊びを存分にとはいきません…。それでも日暮れはとても早くなっています。夜になるとどこからか秋の虫の声が聞こえてきます。朝晩は涼しく過ごしやすくなってきたようにも思います。

「暑さ寒さも彼岸まで」自然の営みはつじつまを合わせるかのように、きっともうすぐヒガンバナを咲かせることだと思います。暑さをしのぎながら、ビオトープで遊んだり、なかよしホールで運動遊びを楽しんだりしている、まだ少し暑い毎日です。

風の子便り



KAZENOKO DAYORI

滋賀大学教育学部附属幼稚園

ビオトープはトンボの楽園でもある

たくさんのトンボが園庭を飛んでいます。ビオトープができてから、園庭を飛ぶトンボの種類がとても増えました。一番多く飛んでいるのは赤とんぼのアキアカネ。シオカラトンボやギンヤンマも見かけるようになりました。ビオトープのそばにある田んぼの稲にはイトトンボが止まっています。夏には黄色いトンボが飛んでいて、「これはなんていうトンボだろう…」とっていたある日！！水色のシオカラトンボと交尾しながら飛んでビオトープに卵を産み付けている様子に出会いました。**シオカラトンボのメスは黄色い！**という衝撃！自然界は知らないことだらけです。

さて、トンボを追いかける5歳児の面々。

「先生、捕ってー」と言われたので、「追いかけたら負け、止まっているところに網をスツと…」居合切りのように網を振って捕まえました。あまりの早業に驚いた後「追いかけたら負け…追いかけたら負け」呪文を唱えながらトンボを追いかけ続けていた面々でした。😊

稲の栽培あれこれ



滋賀大学教育学部森太郎先生のご指導によりさまざまな栽培活動でも興味関心を深めている子供たちです。ビオトープ横の田んぼでは稲が穂を垂らし、いよいよ稲刈りが近づいてきました。稲作は5月の連休に田植えをして台風が来る前の9月半ばに刈取るのが一般的なスケジュールですが、夏休み後に出穂の様子穂が垂れていく様子を見ることができるようにと考えて、少し時期をずらしています。

暑さをしのぎながら稲の観察をする子供たちから「スズメがお米を食べに来ている」「トンボも止まって食べている」との報告で、案山子をつくったり、網で囲ったり。このような活動につながるのも、**子供たちにとっての適期**を考えて取り組んでいるからこそでしょう。

さて、刈取り、稲架掛け（はさがけ）、脱穀と、これからも仕事は続きます。楽しみです。ちなみに森先生はお酒を仕込んでおられます。





SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

～副園長のおしゃべり～

運動遊びについてずっと興味をもって実践研究をしています。15年ほど前の私は「できるようになる」ことを見据えて技術指導を重視していました。「大矢先生のクラスになったら、開脚跳びや逆上がりができるようになるって!」と言われたものです。ちょっぴり鼻を高くしていたのもホントのところですよ。

ある夜、県教委指導主事 N 先生と飲みながら話をしていました。「先生、俺、いろいろ指導してます。できてなんぼですよ」と言った私に、N 先生は「大矢君、ちがうねん。これからは遊びや!」と力説。私はガーン。「遊びは学び・学びは遊び」幼児期は遊びを通して学ぶ。幼児教育の基本から運動遊びをとらえなおして今に至ります。「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを充実させるための資質・能力を育成する(小学校学習指導要領体育科)」多様な楽しみ方、多様な評価を大切にしていくことで、誰一人として体を動かす遊びを苦手と感じることなく卒園させたい。そう考えています。

季節のアルバム



暑さは続きますが、菜園の準備はしなければなりません。冬に向かう野菜は種まきが一日遅れると収穫が一週遅れると言われているのです。



熱中症対策。なかよしホールでリレー遊びをする5歳児。なかなか格好のよいフォームで走っています。スタートの掛け声もよし!



箱を貼り合わせて作ることが楽しい3歳児。テープの使い方もとても上手です。自分の考えたものをつくりだせる喜び。将来はエンジニア。



3歳児もなかよしホールでかけっこよーいドン! ちょうど観戦に来ていた5歳児さんにハイタッチでゴールイン! もっとやりたい! の声がいっぱい



回らないほうのすし屋です。意外と安くて評判です。仕込んでくれたのはOさんだそうで、分業制度が取り入れられている4歳児の遊びです



みんなで折り紙遊び。細かなことも丁寧にできるようにになりました。細やかな動きを獲得することは脳の発達にとっても大切なことなのです。



世界陸上東京大会が開催中。力を出し切った選手たちがゴール後にお互いをたたえ合う姿に感動しています。夏の甲子園でも勝ったチームが先にグラウンドをあとにするのですが、負けたチームの監督や主将が「つぎ、頑張ってください!」と言って送り出していました。

さて、右の写真は陸上日本選手権での女子100メートルハードルの決勝を終えたファイナリストたちです。100分の1秒を争う接戦を終え、全員が互いを敬いたたえ合っている姿にグッときました。

「グッドルーザーであれ」次にどうするかが未来をつくっていくのだと強く思う。2025 夏

